

□議員名：奥 良秀

1 子育て世代から選ばれるまち推進プロジェクトについて

論点	児童虐待の実態把握を適切に行っているか。
回答	学校や保育園からの通告や住民からの子供の泣き声通報等により把握に努めている。

論点	児童虐待の課題解決をどの様に行っているか。
回答	保育園や警察、児童相談所等で構成する山陽小野田市子育て支援ネットワーク協議会を設置・運営し、関係機関相互の連携、協力、情報共有等に努め、虐待の未然防止を図り子供の最善の利益が損なわれることがないように取り組んでいく。

論点	いじめの実態把握を適切に行っているか。
回答	学校では、定期的実施するいじめアンケートや児童生徒の日記、日常観察などから小さな変化も見逃さないよう努力をしている。また、早期対応として文部科学省の通知に基づく積極的ないじめの認知を行い、心身の苦痛を感じているものはいじめと捉え対応している。

論点	いじめの課題解決をどの様に行っているか。
回答	いじめの100%解消を目指し、全ての教職員が複数の目で見守るとともに、組織的な教育相談体制を確保し、早期発見と適切な対応を行うことができるようしっかりと支援を行う。

論点	不登校の児童生徒の対応は適切に行っているか。
回答	学校に一人でも多く復帰できるよう、校内での教育相談体制の確保、教育委員会の心の支援員やヤングテレホンによる相談、心理の専門家であるスクールカウンセラーや福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーの派遣、子育て支援課の家庭児童相談員や児童相談所等とも連携し、児童生徒に寄り添った対応を行っている。また、市内二カ所のふれあい相談室でも、登校に向け個に応じた支援を行い、やがて登校できるようになったり、継続して登校はできずとも、好ましい変化が見られるようになっている。

2 にぎわい・活力・地域資源活用プロジェクトについて

論点	スポーツ振興への取組はどのように行っているか。
回答	スポーツは、心身の健全な発達や健康、体力の保持、増進にとどまらず、人々に夢や感動を与え、さらには地域の一体感や活力の情勢、交流促進などさまざまな力を持っている。本市は、多様な体育施設を有しているが、限りもある為、多種の競技団体と関係を密にして調整を行っている。

3 シビックプライドの取組について

論点	スマイルプランナー登録制度の平成 31 年度目標値は。
回答	数値を設定すると、その数値ばかりを追いかけてしまいかねない。大切なことは、シビックプライドを掲げた方々が、少しずつでも増えることだ。そのためにも、しっかりと本市の魅力を市内外に発信していく。

論点	限られた財源のなか、ハロウィンイベント事業（1000 万円）がシビックプライド醸成の為に効果的な施策か。
----	--

回答	この事業の目的は、あくまでも本市の魅力を市外県外に伝える一手法として取り組んでいく。意外性のあるイベントで、特に若い人達に山陽小野田市が面白いこと行っていると発信していただく事により、市の認知度の上げシビックプライドの醸成に繋げていきたい。
----	--

※一般質問(代表質問)における論点について、わかりやすくまとめる。

文字は 12 ポイントで統一し、ひとり 3 枚以内とする。

1 つの論点と回答につき、論点は 2 行程度、回答は 4 行程度とする。